

平成 28 年度

総合教育センターの研修・支援・研究業務の推進に関する調査結果

～現場に役立つ教育センターを目指して～



Web 公開用

【目次】

I 実施概要	1
1 調査目的	
2 調査対象	
3 調査期日	
4 調査内容	
5 調査方法	
6 回答数及び回収率	
II 研修・支援・研究業務の推進に関する調査（小中高特）	3
1 回答者に関わる調査	3
2 研修業務推進に関わる調査	4
3 支援業務推進に関わる調査	21
4 研究業務推進に関わる調査	23
5 総合教育センターの研修・支援・研究業務への意見・要望	28
III 研修・支援・研究業務の推進に関する調査（幼稚園）	29
1 回答者に関わる調査	29
2 研修業務推進に関わる調査	30
3 支援業務推進に関わる調査	34
4 研究業務推進に関わる調査	35
5 総合教育センターの研修・支援・研究業務への意見・要望	37
IV 分析・考察	
1 小・中・高・特についての分析・考察	38
2 幼稚園についての分析・考察	43

I 実施概要

1 調査目的

平成 29 年度以降の総合教育センターにおける研修、支援、研究業務の推進に役立てるため、教育現場のニーズを把握するものです。

2 調査の対象

- | | | |
|--------------------|--------------------------|------------|
| (1) 市町村立幼稚園等 | (55園) | |
| (2) 市町村立小・中・義務教育学校 | (小：331校、中：160校、義務教育学校1校) | |
| (3) 県立中学校 | (1校) | |
| (4) 県立高等学校 | (66校) | |
| (5) 市立高等学校 | (1校) | |
| (6) 県立特別支援学校 | (14校) | |
| (7) 国立幼・小・中・特別支援学校 | (4校) | 計 637 校(園) |

3 調査期日

平成 28 年 6 月

4 調査内容

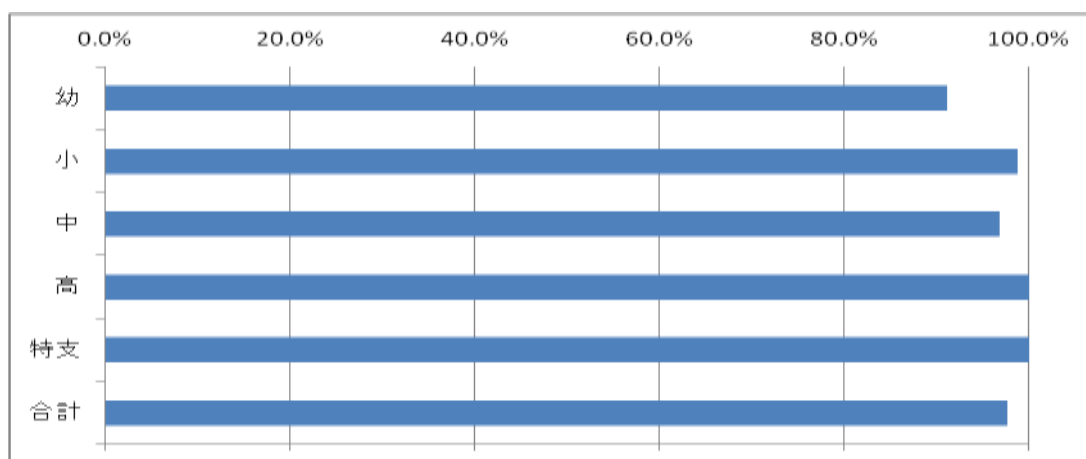
- (1) 岩手県立総合教育センターの業務推進に関する調査 (対象：小・中・義務教育学校・高・特支)
- ア 研修業務推進に関わる調査
 - (ア) 研修講座の活用について (質問 4～質問 6)
 - (イ) 研修内容のニーズについて (質問 7～質問 10)
 - イ 支援業務推進に関わる調査
 - (ア) 各研修・相談のニーズについて (質問 11～質問 12)
 - ウ 研究業務推進に関わる調査
 - (ア) 研究成果物の活用について (質問 13～15)
 - (イ) 研究成果物の入手方法について (質問 16)
 - (ウ) 研究内容のニーズについて (質問 17)
 - エ 総合教育センターの研修・支援・研究業務への意見・要望 (質問 18)
- (2) 岩手県立総合教育センターの業務推進に関する調査 (対象：幼稚園)
- ア 研修業務推進に関わる調査
 - (ア) 研修講座の活用について (質問 3～質問 5)
 - (イ) 研修内容のニーズについて (質問 6～質問 7)
 - イ 支援業務推進に関わる調査
 - (ア) 各研修・相談のニーズについて (質問 8～質問 9)
 - ウ 研究業務推進に関わる調査
 - (ア) 研究成果物の活用について (質問 10～12)
 - (イ) 研究成果物の入手方法について (質問 13)
 - (ウ) 研究内容のニーズについて (質問 14)
 - エ 総合教育センターの研修・支援・研究業務への意見・要望 (質問 15)

5 調査方法

調査は、岩手教育情報交流ネットを利用して行う。

6 回答数及び回収率（県内国公立）

校種	対象数	回答数	回収率	参考 (H26 回収率)
幼稚園	56	51	91.1%	77.4%
小学校・義務教育学校前期	333	328	98.8%	97.7%
中学校・義務教育学校後期	163	158	96.9%	87.0%
高等学校(定時制、通信制も1校としてカウント)	72	72	100%	100%
特別支援学校	15	15	100%	100%



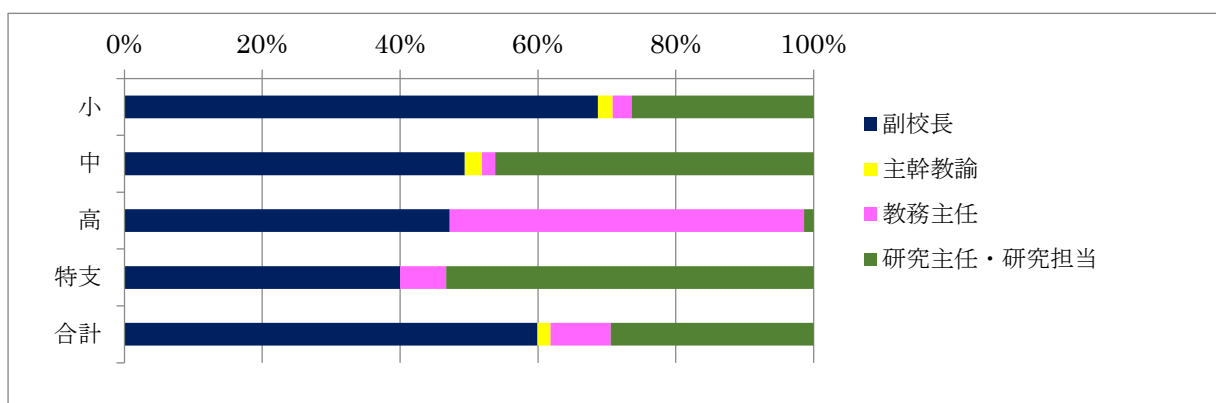
Ⅱ 研修・支援・研究業務の推進に関する調査（小中高特）

1 回答者に関わる調査（質問1・質問3）

【質問1】あなたの学校の校種を回答してください。

【質問3】回答者の職名（校務分掌）を回答してください。

	小	中	高	特支	合計
副校長	226 (68.7%)	78 (49.4%)	34 (47.2%)	6 (40.0%)	344 (59.9%)
主幹教諭	7 (2.1%)	4 (2.5%)	0 (0%)	0 (0%)	11 (1.9%)
教務主任	9 (2.7%)	3 (1.9%)	37 (51.4%)	1 (6.7%)	50 (8.7%)
研究主任（研究担当）	87 (26.4%)	73 (46.2%)	1 (1.4%)	8 (53.3%)	169 (29.4%)



（結果）

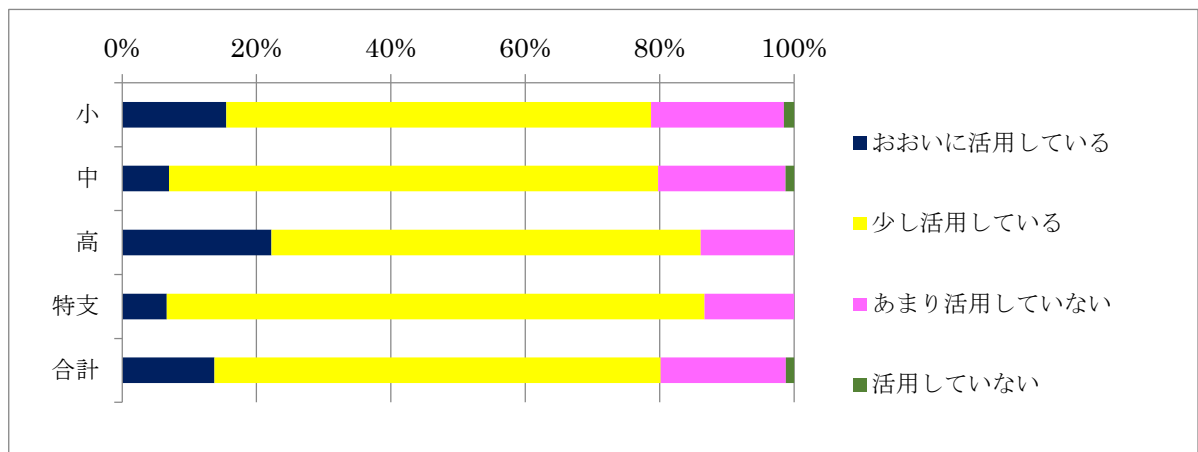
- ・ 小学校は副校長の回答が7割近くを占めている。
- ・ 中学校は副校長の他に、研究主任（研究担当）からの回答がほぼ半数を占めている。
- ・ 高等学校は副校長の他に、教務主任からの回答がほぼ半数を占めている。
- ・ 特別支援学校は副校長の他に、研究主任（研究担当）からの回答がほぼ半数を占めている。

2 研修業務推進に関わる調査

(1) 研修活用状況に関わる調査（質問4）

【質問4】回答者からみて、貴校職員が当センターで研修した内容をどの程度活用していますか。

	小	中	高	特支	合計	参考 (H26 合計)
おおいに活用している	51 (15.5%)	11 (7.0%)	16 (22.2%)	1 (6.7%)	79 (13.8%)	85 (14.9%)
少し活用している	208 (63.2%)	115 (72.8%)	46 (63.9%)	12 (80.0%)	381 (66.4%)	330 (57.9%)
あまり活用していない	65 (19.8%)	30 (19.0%)	10 (13.3%)	2 (13.3%)	107 (18.6%)	141 (24.7%)
活用していない	5 (1.5%)	2 (1.3%)	0 (0%)	0 (0%)	7 (1.2%)	14 (2.5%)



(結果)

- ・各校種とも研修内容については、「おおいに活用している」「少し活用している」を合わせると約8割になり、前回調査と比較して活用率が1割上がっている。
- ・校種ごとに比較すると、高等学校と特別支援学校において活用率が高い。

(2) 活用している研修（質問5）[自由記述]

【質問5】「質問4」で「おおいに活用している」「ある程度活用している」と回答した場合のみお答えください。どのような研修内容を学校で活用していますか。具体的な研修の講座名と内容を箇条書きで記入してください。

ア 小学校

※回答数の多いもの、上位10項目

回答内容	回答数
特別支援教育	60
授業力向上研修	60
基本研修（初任研、2年目研、3年目研、5年研）	47
教育研究発表会	40
国語	32
算数・数学	20
情報モラル指導	17
生徒指導（いじめ問題等を含む）	16
理科	13
教育相談	13

イ 中学校 [自由記述]

※回答数の多いもの、上位10項目

研修内容	回答数
特別支援教育	25
授業力向上研修	18
数学	18
基本研修（初任研、2年目研、3年目研、5年研）	18
中学校免許外担任研修	15
教育研究発表会	14
教育相談	9
技術	8
国語	7
道徳	6

ウ 高等学校 [自由記述]

※回答数の多いもの、上位 10 項目

研修内容	回答数
基本研修（初任研、2 年目研、3 年目研、5 年研）	25
特別支援教育	16
教育相談	16
授業力向上研修	10
生徒指導（いじめ問題等を含む）	7
地歴公民	6
情報教育	4
情報モラル指導	4
国語	4
数学	4
英語	4

エ 特別支援学校 [自由記述]

※回答数の多いもの、上位 3 項目

研修内容	回答数
情報教育	7
WISC-IV	6
生徒指導（いじめ問題等を含む）	4

(4) 活用していない理由に関わる調査（質問 6） [自由記述]

【質問 6】「質問 4」で「あまり活用していない」「活用していない」と回答した場合のみお答えください。当センターで研修した内容を活用していない理由は何ですか。

※回答数の多いもの上位 5 項目

回答内容	回答数
業務多忙／伝講機会の不足	48
希望が少ない／周知ができていない	20
個人の活用に任せてしまっている／学校全体の活用になっていない	10
現場のニーズとの不一致	8

(5) センターの研修として取り上げてほしい教科・科目に関する調査（質問7）

【質問7】 貴校の課題を解決するために、総合教育センターの研修として取り上げてほしい教科・科目について以下の項目から選んでください。

	小学校		中学校		高等学校		特別支援学校		合計	
	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
国語	146	44.4%	58	36.7%	32	44.4%	3	20.0%	239	41.6%
社会 <small>（地理・歴史、公民含む）</small>	37	11.2%	36	22.8%	21	29.2%	1	6.7%	95	16.6%
算数・数学	149	45.3%	53	33.5%	28	38.9%	3	20.0%	233	40.6%
理科	44	13.4%	39	24.7%	24	33.3%	1	6.7%	108	18.8%
生活	18	5.5%	3	1.9%	0	0.0%	0	0.0%	21	3.7%
音楽	22	6.7%	18	11.4%	5	6.9%	3	20.0%	48	8.4%
図画工作／美術	28	8.5%	20	12.7%	5	6.9%	2	13.3%	55	9.6%
書道	10	3.0%	5	3.2%	4	5.6%	0	0.0%	19	3.3%
家庭／技術・家庭	9	2.7%	28	17.7%	10	13.9%	1	6.7%	48	8.4%
保健体育	24	7.3%	19	12.0%	9	12.5%	2	13.3%	54	9.4%
外国語	43	13.1%	50	31.6%	28	38.9%	1	6.7%	122	21.3%
工業	0	0.0%	0	0.0%	8	11.1%	0	0.0%	8	1.4%
農業	0	0.0%	0	0.0%	3	4.2%	0	0.0%	3	0.5%
商業	0	0.0%	0	0.0%	6	8.3%	0	0.0%	6	1.0%
水産	0	0.0%	1	0.6%	1	1.4%	0	0.0%	2	0.3%
情報	42	12.8%	27	17.1%	12	16.7%	4	26.7%	85	14.8%
福祉	4	1.2%	3	1.9%	2	2.8%	0	0.0%	9	1.6%
特別の教科 道徳	151	45.9%	81	51.3%	1	1.4%	4	26.7%	237	41.3%
小学校英語	159	48.3%	6	3.8%	0	0.0%	2	13.3%	167	29.1%
その他	18	5.5%	21	13.3%	22	30.6%	5	33.3%	66	11.5%

※ 各校種の上位5項目を色づけ

(6) センターの研修として取り上げてほしい研修内容（質問8） [自由記述]

【質問8】「質問7」で選択した教科・科目の研修内容として具体的にどのような内容を取り上げてほしいですか。「その他」を選択している場合には教科・科目の名称もお書きください。

※回答数の多いもの上位3項目

ア 小学校

	回答数	割合	主な回答
国語	146	44.4%	<ul style="list-style-type: none"> ・主体的な学び、アクティブ・ラーニングの実現 ・身に付けさせたい力の明確化 ・言語活動の位置付け方（実践例） ・単元構想のあり方 ・対話的な学びにつながる言語活動と指導のあり方 ・交流や話合いのさせ方 ・国語科におけるまとめと振り返りのさせ方 ・授業で活用できるワークシートづくり ・ユニバーサルデザインを取り入れた授業づくり ・深い読み取りの仕方 ・複式指導の具体的な指導モデル ・新学習指導要領で重視すべきこと ・読むこと領域における教科書教材の扱い方 ・説明的な文章の指導 ・最新の国語教育
社会	37	11.2%	<ul style="list-style-type: none"> ・系統的な課題解決学習のあり方 ・教材分析 ・資料の扱い方 ・振り返りのさせ方 ・グループ学習の実際 ・歴史の授業の展開方法
算数	149	45.3%	<ul style="list-style-type: none"> ・主体的な学び ・算数・数学的な表現力を高めるための授業づくり ・数学的な考え方を育成するための言語活動の充実 ・学ぶ意欲を持続させる導入・終末の工夫 ・学び合い（ペアやグループ）の手立て、方法、形態 ・振り返りのさせ方 ・ユニバーサルデザインを取り入れた授業づくり ・教科書を使った授業展開のあり方 ・全国学調、県学調の結果分析の手法と活用の仕方 ・二極化の改善 ・複式指導における指導方法 ・評価規準 ・最新の指導事例、研究実践例 ・効果的な少人数指導のシステム

理科	44	13.4%	<ul style="list-style-type: none"> ・ 5・6年理科における実験の仕方、片付け方 ・ 科学的な思考力、表現力を育てる指導のあり方 ・ 効果的な振り返りのさせ方 ・ 系統性を踏まえた年間指導計画の作成 ・ 観察を中心とした授業 ・ 理科における交流活動のあり方 ・ 用具や器具の工夫（不足しているときの工夫、新しい教具や教材） ・ 実験用具の紹介
生活	18	5.5%	<ul style="list-style-type: none"> ・ 子供の資質・能力を高めるための効果的な指導 ・ 探究的な学習過程を大切にした単元構成
音楽	22	6.7%	<ul style="list-style-type: none"> ・ ピアノが弾けなくてもできる歌唱指導の仕方 ・ 器楽の基本的な演奏、楽器の基礎知識 ・ ふしづくりの授業 ・ 合唱指導
図画工作	28	8.5%	<ul style="list-style-type: none"> ・ 発達段階を考慮した図画指導 ・ 指導過程の工夫 ・ 鑑賞 ・ 素材の工夫 ・ 水彩画やポスターの指導 ・ 学び合いのさせ方
書写	10	3.0%	<ul style="list-style-type: none"> ・ 実技研修 ・ 基本的な点画の指導 ・ 複式指導
家庭	9	2.7%	<ul style="list-style-type: none"> ・ 家庭科における言語活動の充実 ・ 調理を伴う授業展開
体育	24	7.3%	<ul style="list-style-type: none"> ・ 体力テストの結果に基づく取組 ・ 小規模・複式における体育の授業 ・ 表現運動（特にリズム・ダンス） ・ 運動量の確保と場の設定の工夫 ・ 水泳指導
情報	42	12.8%	<ul style="list-style-type: none"> ・ 効果的な指導方法 ・ ICTの活用方法と実践例 ・ 気軽に使える情報機器 ・ 情報セキュリティー・ネットワークシステムの構築 ・ 情報モラルに関する具体的な指導方法 ・ 情報メディアとの上手な付き合い方の指導 ・ 小学校におけるプログラミングの学習 ・ タブレットを活用したアプリ
特別の教科 道徳	151	45.9%	<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業改善 ・ 問題解決的な話し合い ・ 評価方法

小学校英語	159	48.3%	<ul style="list-style-type: none"> ・最新の動向 ・具体的な授業づくりや実践例 ・教材研究 ・校内研究の進め方 ・教員の指導技術向上のための研修 ・外国語活動における指導の系統性 ・ねらいに応じたゲーム等の紹介 ・ALT と担任の連携の仕方 ・モジュールの活用
その他	18	5.5%	<ul style="list-style-type: none"> ・深い学びに向けた授業改善 ・協働的な学び ・アクティブ・ラーニングの視点からの授業づくり ・主体的な学びにつながる課題と振り返りのあり方 ・「よくわかる授業」の構想のあり方 ・岩手の授業づくり3つの視点に沿った授業のポイント ・岩手の先人教育

イ 中学校

	回答数	割合	主な回答
国語	58	36.7%	<ul style="list-style-type: none"> ・言語活動の実践・評価方法 ・書く力を高めるための授業 ・生徒の表現力を高めるための指導のあり方 ・読書活動の推進
社会	36	22.8%	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的な授業の進め方（導入の工夫など） ・歴史的分野第1章の扱い ・評価の仕方
数学	53	33.5%	<ul style="list-style-type: none"> ・全国学調及び「授業アイデア例」を活用した授業や指導法 ・日常生活との関連を意識した教材及び問題づくり ・学力向上につながるわかる授業づくり ・チームティーチングのあり方 ・能力差（学力差）への対応 ・問題解決学習のあり方 ・証明等の指導
理科	39	24.7%	<ul style="list-style-type: none"> ・理科における実験・観察の仕方 ・問題解決学習のあり方 ・優れた指導実践例 ・発展的な実験、新しい教科書で掲載された実験 ・すぐに見える教材の紹介 ・失敗の多い実験や観察のこつ ・理科準備室の整理の仕方 ・廃液処理の方法 ・自由研究、グループ研究の指導方法 ・地学全般

生活	3	1.9%	・ 特別支援学級における「生活科」
音楽	18	11.4%	・ 授業実践の具体的な方法 ・ 合唱指導の方法 ・ 効果的な年間指導計画の作り方 ・ 伝統音楽について
美術	20	12.7%	・ 鑑賞の授業の工夫 ・ 鑑賞のテーマと素材 ・ 具体的な題材の例 ・ 短時間教材の開発
書写	5	3.2%	・ 書写指導実践の紹介
技術・家庭	28	17.7%	・ 問題解決学習（授業展開）のあり方 ・ 年間の見通しや教材選定の仕方 ・ 免許外教諭のために指導方法を研修する講座の更なる充実
保健体育	19	12.0%	・ 各種調査データの活用 ・ 評価方法について
外国語	50	31.6%	・ 確かな学力の定着のための授業づくり ・ 能力差（学力差）への対応 ・ CAN-DO リストの作成の手順、活用方法 ・ パフォーマンステストの実施方法や内容 ・ クラスルームイングリッシュの活用 ・ All English の指導例 ・ 英作文のための文法スキル ・ リーディング指導の効果的な実践方法 ・ 中高連携
情報	27	17.1%	・ ICT を活用した授業 ・ 情報モラル指導（スマートフォン、インターネット） ・ 情報リテラシー ・ ワード、エクセルの実務研修 ・ 統計処理の方法
特別の教科 道徳	81	51.3%	・ 指導方法、授業づくり、授業改善 ・ 考え、議論する道徳科の授業のあり方 ・ 評価方法 ・ 年間指導計画の例 ・ 私たちの道徳の活用例 ・ 体験的な行事と関連付けた道徳の指導のあり方
その他	21	13.3%	・ 教科横断的な授業改善の方策 ・ 授業改善・学力向上の具体的な手立て ・ アクティブ・ラーニングの視点からの授業づくり ・ 少人数の学校における指導のあり方（話し合い活動、学び合い） ・ 学習課題の設定と評価 ・ ユニバーサルデザインの視点 ・ 学力調査を活用した指導のあり方

ウ 高等学校

	回答数	割合	主な回答
国語	32	44.4%	・「話すこと・聞くこと」についての実践例 ・国語科における観点別評価 ・国語科の学力向上
地理・歴史、公民	21	29.2%	・言語活動を取り入れた授業づくり ・観点別考査問題の作成 ・主権者教育
数学	28	38.9%	・言語活動を取り入れた授業づくり ・中高連携した数学指導のための教材 ・評価の工夫 ・授業実践、指導例
理科	24	33.3%	・生物教材の紹介 ・顕微鏡操作、試薬の調製等、基本的な実験観察の研修 ・小規模校における教育課程
音楽	5	6.9%	・和楽器の扱い方 ・変声期の男子生徒に対する指導法
技術・家庭	10	13.9%	・タブレット端末を使用した授業の展開
保健体育	9	12.5%	・体育理論及び実技の授業の展開例
外国語	28	38.9%	・パフォーマンステストの実践例 ・長文読解力を深める指導の工夫 ・英語でのディベートについての指導スキルを向上させる研修 ・All English の授業方法
工業	8	11.1%	・工業実技科目の観点別評価を盛り込んだ授業 ・最先端技術についての研修（電気、機械、情報） ・機械系及び建設系学科に特化した CAD 研修 ・シーケンス制御・PIC 制御
農業	3	4.2%	・専門分野に係る資料作成（栽培飼育実験、食品加工実験、各種分析実験） ・農業専門の研修
商業	6	8.3%	・アプリ開発（Android studio） ・プログラム言語の活用
情報	12	16.7	・タブレットを使った授業や教材作成 ・携帯・スマホ等による弊害とその対処法 ・Linux または Ubuntu サーバの構築、Unity によるゲーム開発 ・初心者レベルへの表計算ソフト講座
福祉	2	2.8%	・学習指導と評価 ・産業社会と人間
特別の教科 道徳	1	1.4%	・道徳教育の推進方法
その他	22	30.6%	・SGH やアクティブ・ラーニングにおける効果横断型の授業形態 ・観点別評価 ・高大接続改革など、今後の高校教育の変化 ・小中高が連携した学習指導と学力向上

エ 特別支援学校

	回答数	割合	主な回答
国語	3	20.0%	・ユニバーサルデザインの視点を取り入れた授業づくり ・知的発達に2～4歳程度の児童を対象にした学習内容
社会 (地理・歴史、公民含む)	1	6.7%	・ユニバーサルデザインの視点を取り入れた授業づくり
算数・数学	3	20.0%	・ユニバーサルデザインの視点を取り入れた授業づくり ・知的発達に2～4歳程度の児童を対象にした学習内容
理科	1	6.7%	・ユニバーサルデザインの視点を取り入れた授業づくり
音楽	3	20.0%	・支援を必要とする児童生徒が取り組める授業づくり ・知的障がい教育における具体的な支援方法 ・器楽、創作、歌唱、鑑賞の指導
美術	2	13.3%	・支援を必要とする児童生徒が取り組める授業づくり ・表現や鑑賞の指導について
家庭／技術・家庭	1	6.7%	・支援を必要とする児童生徒が取り組める授業づくり
保健体育	2	13.3%	・知的障がい教育における具体的な支援方法、学習内容
情報	4	26.7%	・生活を豊かにするための正しい情報機器の取り扱い ・特別支援教育におけるタブレット・PC活用 ・ICT機器の活用
特別の教科 道徳	4	26.7%	・評価方法 ・問題解決的な学習
小学校英語	2	13.3%	・特別支援学校で学ぶ準ずる教育を受けている児童への効果的な英語教育
その他	5	33.3%	・少人数指導場面でのアクティブ・ラーニング ・生活単元学習、作業学習の進め方

(7) センターの研修として取り上げて欲しい領域等に関わる調査（質問9）

【質問9】貴校の課題を解決するために、総合教育センターの研修内容として取り上げてほしい領域等について以下の項目から選んでください。

	小学校		中学校		高等学校		特別支援学校		合計	
	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
道徳教育	87	26.4%	40	25.3%	3	4.2%	1	6.7%	131	22.8%
特別活動	10	3.0%	22	13.9%	1	1.4%	0	0.0%	33	5.7%
総合的な学習の時間	19	5.8%	21	13.3%	9	12.5%	1	6.7%	50	8.7%
小学校外国語活動	89	27.1%	2	1.3%	0	0.0%	1	6.7%	92	16.0%
キャリア教育	26	7.9%	21	13.3%	11	15.3%	1	6.7%	59	10.3%
特別支援教育	115	35.0%	56	35.4%	28	38.9%	7	46.7%	206	35.9%
自立活動	15	4.6%	4	2.5%	4	5.6%	7	46.7%	30	5.2%
国際理解教育	7	2.1%	6	3.8%	1	1.4%	0	0.0%	14	2.4%
環境教育	4	1.2%	2	1.3%	1	1.4%	0	0.0%	7	1.2%
ボランティア教育	5	1.5%	9	5.7%	5	6.9%	0	0.0%	19	3.3%
情報教育	43	13.1%	30	19.0%	7	9.7%	3	20.0%	83	14.5%
復興教育	45	13.7%	26	16.5%	10	13.9%	2	13.3%	83	14.5%
防災教育	28	8.5%	22	13.9%	14	19.4%	2	13.3%	66	11.5%
読書指導	20	6.1%	7	4.4%	2	2.8%	0	0.0%	29	5.1%
健康教育	6	1.8%	3	1.9%	2	2.8%	0	0.0%	11	1.9%
学校安全	8	2.4%	8	5.1%	5	6.9%	0	0.0%	21	3.7%
伝統文化教育	3	0.9%	6	3.8%	1	1.4%	0	0.0%	10	1.7%
消費者教育	8	2.4%	4	2.5%	1	1.4%	1	6.7%	14	2.4%
小規模・複式指導	67	20.4%	7	4.4%	4	5.6%	0	0.0%	78	13.6%
学校経営	5	1.5%	7	4.4%	3	4.2%	0	0.0%	15	2.6%
学級・学年経営	32	9.7%	21	13.3%	3	4.2%	0	0.0%	56	9.8%
生徒指導	28	8.5%	29	18.4%	9	12.5%	0	0.0%	66	11.5%
教育相談	32	9.7%	37	23.4%	15	20.8%	4	26.7%	88	15.3%
教育法規	1	0.3%	2	1.3%	2	2.8%	0	0.0%	5	0.9%
校内研修	13	4.0%	5	3.2%	6	8.3%	1	6.7%	25	4.4%
校内研究	15	4.6%	16	10.1%	0	0.0%	3	20.0%	34	20.0%
カリキュラム・マネジメント	23	4.6%	13	8.2%	6	8.3%	2	13.3%	44	7.7%
主権者教育	6	1.8%	4	2.5%	21	29.2%	4	26.7%	35	6.1%
その他	12	3.6%	14	8.9%	10	13.9%	2	13.3%	38	6.6%

※ 各校種の上位5項目を色づけ

(8) その他の項目に関わる調査（質問 10） [自由記述]

【質問 10】「質問 9」で選択した領域の研修内容として具体的にどのような内容を取り上げてほしいですか。「その他」を選択している場合には教科・科目の名称もお書きください。

ア 小学校

	回答数	割合	主な回答
道徳教育	87	26.4%	<ul style="list-style-type: none"> ・道徳教育全体計画及び年間指導計画の作成の仕方 ・発問、資料分析、効果的な板書などの指導法改善 ・評価のあり方
特別活動	10	3.0%	<ul style="list-style-type: none"> ・話し合い活動の進め方を取り上げた研修
総合的な学習の時間	19	5.8%	<ul style="list-style-type: none"> ・学年の系統性を踏まえた単元配列、年間指導計画のあり方 ・カリキュラムと評価のあり方 ・小規模・複式における授業形態の工夫等 ・子供の資質・能力を高めるための効果的な指導
小学校外国語活動	89	27.1%	<ul style="list-style-type: none"> ・中学校英語との接続 ・実践例及び具体的な指導方法 ・コミュニケーション能力を育てる指導のあり方 ・評価の仕方 ・学校の特色を生かした「Hi、friends!」の効果的な活用方法 ・ALT の活用のあり方 ・校内研修の進め方
キャリア教育	26	7.9%	<ul style="list-style-type: none"> ・教育活動全体を通してキャリア教育をどのように位置付けるか
特別支援教育	115	35.0%	<ul style="list-style-type: none"> ・通常の学級における支援を要する児童の指導のあり方 ・特別支援教育における教育課程の編成 ・多様化する障がいのある児童に対する適切な支援方法 ・特別支援学級と交流学級との連携のあり方 ・ユニバーサルデザインの視点を取り入れた授業 ・インクルーシブ教育の充実 ・合理的配慮 ・WISC-IVの検査の仕方 ・家庭と医療、専門機関との連携のあり方
自立活動	15	4.6%	<ul style="list-style-type: none"> ・個々のニーズに応じた具体的な指導方法
国際理解教育	7	2.1%	<ul style="list-style-type: none"> ・地域に根差した国際理解教育
環境教育	4	1.2%	<ul style="list-style-type: none"> ・復興教育と関連した環境教育の進め方
ボランティア教育	5	1.5%	<ul style="list-style-type: none"> ・新学習指導要領上におけるボランティア教育
情報教育	43	13.1%	<ul style="list-style-type: none"> ・情報モラル教育の推進（インターネット、スマホ、SNS 等） ・学校全体の指導計画 ・校内整備の手順 ・SQS の扱いについて ・情報機器についての最新情報

復興教育	45	13.7%	<ul style="list-style-type: none"> ・復興教育における実践事例 ・復興教育副読本の効果的な活用方法 ・内陸部の学校の取組 ・これからの復興教育の方向性
防災教育	28	8.5%	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭や地域の実情を踏まえた防災教育のあり方 ・各教科における位置付け
読書指導	20	6.1%	<ul style="list-style-type: none"> ・様々なジャンルの読書のさせ方 ・読書好きの子どもを育てる手だて ・家庭との連携
健康教育	6	1.8%	<ul style="list-style-type: none"> ・健康課題と食 ・肥満・生活習慣病の減少に向けた取組 ・ゲームの世界から抜け出せない子への指導
学校安全	8	2.4%	<ul style="list-style-type: none"> ・留意点と具体的な推進方法 ・非常時の危機管理 ・児童自らが命と安全を守るための指導 ・実際の場面を想定した避難
伝統文化教育	3	0.9%	<ul style="list-style-type: none"> ・地域人材の活用方法
消費者教育	8	2.4%	<ul style="list-style-type: none"> ・授業への位置付け方
小規模・複式指導	67	20.4%	<ul style="list-style-type: none"> ・複式指導のあり方（各教科等） ・変則複式指導を行う上での留意点 ・学び合いのさせ方
学校経営	5	1.5%	<ul style="list-style-type: none"> ・管理職の資質向上 ・人材育成や組織力の強化など、学校経営マネジメント
学級・学年経営	32	9.7%	<ul style="list-style-type: none"> ・より良い学級集団づくりの指導 ・学級経営に生かせる集団づくりゲーム等 ・教員タイプ別学級経営の好事例（男女・年代・得意教科等） ・Q-Uを用いた学級経営 ・チームで学年を育てるための方策
生徒指導	28	8.5%	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒指導の三機能を生かした授業づくり ・いじめの未然防止、いじめ事案の対応のあり方 ・学校不適応の未然防止、早期発見・対応のための指導体制 ・事例を基にした具体的な指導
教育相談	32	9.7%	<ul style="list-style-type: none"> ・子供の心理分析、カウンセリングの手法 ・スクールカウンセラーとの連携のあり方 ・アドラー心理学 ・心のサポート授業の仕方
校内研修	13	4.0%	<ul style="list-style-type: none"> ・OJT、自己課題研修 ・同僚性を高め合う教師集団の育成
校内研究	15	4.6%	<ul style="list-style-type: none"> ・効果的な校内研究の進め方 ・アクティブ・ラーニング
カリキュラム・マネジメント	23	4.6%	<ul style="list-style-type: none"> ・次期学習指導要領を見据えたカリキュラム・マネジメントのあり方 ・基本的な考え方 ・地域の実態を踏まえた編成について

主権者教育	6	1.8%	<ul style="list-style-type: none"> ・具体的な進め方 ・主権者として自らの考えをもたせるための授業のあり方 ・小学校における主権者教育の第一歩
その他	12	3.6%	<ul style="list-style-type: none"> ・アクティブ・ラーニング ・評価方法

イ 中学校

	回答数	割合	主な回答
道徳教育	40	25.3%	<ul style="list-style-type: none"> ・教科化に伴う道徳教育のカリキュラムの作成 ・自他を尊重する心を育む授業展開 ・学習課題の設定の仕方 ・適切な発問のあり方 ・生徒が主体的に学び合える授業に向けた理論や手だて ・ワークシートの扱い ・評価のあり方
特別活動	22	13.9%	<ul style="list-style-type: none"> ・学級力を高め、仲間のよさを大切にす学級集団の育成方法 ・生徒会活動の進め方 ・短学活の進め方と係活動指導の工夫 ・構成的グループエンカウンターの進め方
総合的な学習の時間	21	13.3%	<ul style="list-style-type: none"> ・3年間を見通した年間指導計画や具田的な実践事例 ・単元構想や評価の仕方
小学校外国語活動	2	1.3%	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校担当との連携や導入段階における指導方法（乗り入れ授業）
キャリア教育	21	13.3%	<ul style="list-style-type: none"> ・職場体験学習のねらいと進め方、職業選択のさせ方 ・地域の特性を生かしたキャリア教育の推進 ・自分の生き方について考えさせる授業や取組 ・高等学校進学も含めた職業的発達課題
特別支援教育	56	35.4%	<ul style="list-style-type: none"> ・通常の学級における支援を要する生徒の指導のあり方 ・ユニバーサルデザインの視点にたったわかる授業づくり ・障がい種に応じた支援の仕方 ・特別支援学級における生活単元学習や自立活動の例 ・インクルーシブ教育 ・個別の指導計画、個別の教育支援計画の作成
自立活動	4	2.5%	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒が主体的に物事に取り組める資質向上のための手立て
国際理解教育	6	3.8%	<ul style="list-style-type: none"> ・世界の国々の歴史、文化、政治、経済の入門講座
ボランティア教育	9	5.7%	<ul style="list-style-type: none"> ・日常的にボランティア活動を継続する取組の工夫
情報教育	30	19.0%	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒を取り巻くスマートフォン等の危険性、適切な使い方 ・著作権 ・SNSについて、民間企業に頼らずに教員だけで効果的に指導できる教材の開発や指導方法の研究 ・授業にすぐに活かせる教材作成やソフトの作成
復興教育	26	16.5%	<ul style="list-style-type: none"> ・具体の21項目をどのように教育課程に位置付けていくか ・形骸化させないための取組や工夫 ・内陸部の学校における今後の復興教育の目指すべき方向と実践例

防災教育	22	13.9%	<ul style="list-style-type: none"> ・震災から5年を経過した、風化させないための防災教育 ・危機管理による児童・生徒を守る取組 ・地域と関わって実践している事例 ・地域安全マップの作成
読書指導	7	4.4%	<ul style="list-style-type: none"> ・具体的な読書指導のあり方 ・どのように生徒に読書を好きにさせていくか
健康教育	3	1.9%	<ul style="list-style-type: none"> ・食育について
学校安全	8	5.1%	<ul style="list-style-type: none"> ・判断力や対応力を育む避難訓練と学級指導のあり方
伝統文化教育	6	3.8%	<ul style="list-style-type: none"> ・具体的な実践 ・総合的な学習の時間における伝統文化教育のあり方 ・郷土芸能の無い地域での進め方
消費者教育	4	2.5%	<ul style="list-style-type: none"> ・実践事例
小規模・複式指導	7	4.4%	<ul style="list-style-type: none"> ・少人数のよさを生かした指導、教育課程の工夫（生徒数の減少に伴って） ・小学校で指導する際に役立つ内容
学校経営	7	4.4%	<ul style="list-style-type: none"> ・チームとしての学校経営のあり方 ・人材育成 ・コンプライアンスにかかわる内容
学級・学年経営	21	13.3%	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒指導の三機能を生かした日常的な学級経営の実践例 ・学級における人間関係づくり ・CAPDの学級経営
生徒指導	29	18.4%	<ul style="list-style-type: none"> ・学校いじめ防止基本方針に基づいた学校体制の構築 ・自己肯定感、自尊感情を高める生徒指導 ・ネットトラブル等の生徒指導に関する研修 ・中1ギャップを無くするための小中連携のあり方
教育相談	37	23.4%	<ul style="list-style-type: none"> ・不登校生徒の保護者とのかかわりや支援方法 ・学校不適應の生徒への対応 ・スクールカウンセラーとの連携のあり方 ・生徒との個人面談のポイント ・カウンセリングの手法
教育法規	2	1.3%	<ul style="list-style-type: none"> ・意外と知られていない教育に関する法律 ・物事の判断の根拠となる教育法規
校内研修	5	3.2%	<ul style="list-style-type: none"> ・進化的な校内研修のシステムに具体 ・具体的な進め方
校内研究	16	10.1%	<ul style="list-style-type: none"> ・校内研究の進め方（主題の設定、仮説や検証の方法など） ・校内研究を充実、活性化するための研究主任が果たすべき役割 ・校内研究会の多様な方法 ・諸調査結果の活用方法
カリキュラム・マネジメント	13	8.2%	<ul style="list-style-type: none"> ・具体的な進め方、考え方等 ・特色ある学校づくり
主権者教育	4	2.5%	<ul style="list-style-type: none"> ・中学校における主権者教育のあり方
その他	14	8.9%	<ul style="list-style-type: none"> ・小中連携の実際 ・小中一貫を見据えた系統的なカリキュラムの作成 ・アクティブ・ラーニングなどの最新の教育課題

			<ul style="list-style-type: none"> ・ アンガーマネジメント研修 ・ ILC ・ 保護者との関係づくり
--	--	--	---

ウ 高等学校

	回答数	割合	主な回答
道徳教育	3	4.2%	<ul style="list-style-type: none"> ・ いじめ問題に関して高校として対応すべき道徳教育 ・ 実践事例
総合的な学習の時間	9	12.5%	<ul style="list-style-type: none"> ・ 探究的な活動にむけた全体計画及び指導計画の進め方 ・ 現代的な課題に対応する力を育むような総合的な学習の時間の効果的な活用法
キャリア教育	11	15.3%	<ul style="list-style-type: none"> ・ 進学校におけるキャリア教育の重要性 ・ 企業が求めるコミュニケーション能力 ・ 出口指導にとどまらず、生涯を通じたキャリアデザイン教育の方策 ・ 実業高校に特化したキャリア教育についての実践例
特別支援教育	28	38.9%	<ul style="list-style-type: none"> ・ インクルーシブ教育を進めるうえでの、発達障がいの基本的理解と具体的対応 ・ 個別の教育支援計画の作成及び実践 ・ 特別支援教育と進路 ・ 保護者への対応
ボランティア教育	5	6.9%	<ul style="list-style-type: none"> ・ ボランティア活動の重要性等を生徒に指導するための基礎的内容
情報教育	7	9.7%	<ul style="list-style-type: none"> ・ ICT 活用 ・ タブレットを使用した指導方法 ・ スマートフォン、SNS の急速な普及への対応
復興教育	10	13.9%	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域を支える人材を育てる復興教育のあり方
防災教育	14	19.4%	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域や関係機関と連携した防災教育の実践例 ・ 生徒が主体的に取り組み、地域防災の担い手になるような指導
読書指導	2	2.8%	<ul style="list-style-type: none"> ・ 朝読書の効果的な進め方
健康教育	2	2.8%	<ul style="list-style-type: none"> ・ やせ、肥満等の自覚と改善の指導方法
学校安全	5	6.9%	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自他の生命の尊重と安全で安心な学校づくり
伝統文化教育	1	1.4%	<ul style="list-style-type: none"> ・ 伝統文化を引き継ぐ活動の事例
消費者教育	1	1.4%	<ul style="list-style-type: none"> ・ 進学等に係る経済計画を保護者に伝えるための講座
小規模・複式指導	4	5.6%	<ul style="list-style-type: none"> ・ 小規模校での教育（教育課程、指導上の工夫）
学校経営	3	4.2%	<ul style="list-style-type: none"> ・ 若手教員の育て方、人材育成のあり方
学級・学年経営	3	4.2%	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学年によってブレの生じない3年間を見据えた学年経営
生徒指導	9	12.5%	<ul style="list-style-type: none"> ・ 県内のいじめ事案の傾向 ・ 学校におけるいじめ対応 ・ 生徒指導事案のケーススタディ（生徒指導担当に限らず）
教育相談	15	20.8%	<ul style="list-style-type: none"> ・ 不登校生徒と保護者への対応 ・ 生徒の悩みや相談への対応方法 ・ 認知心理学についての理論と具体的な実践
校内研修	6	8.3%	<ul style="list-style-type: none"> ・ アクティブ・ラーニング ・ 教員が集団として目線を合わせて進められる校内研修の方法

カリキュラム・マネジメント	6	8.3%	<ul style="list-style-type: none"> ・学力向上や不登校など、幅広い領域におけるカリキュラムマネジメントによる課題解決の方法 ・授業改善と組織運営
主権者教育	21	29.2%	<ul style="list-style-type: none"> ・具体的な指導法について（どの学年で、どこまでを、どのように指導するか） ・高校生の校内における政治的な活動 ・定時制・通信制の生徒への指導時期・内容に係る講座 ・センターでの生徒対象の研修機会
その他	10	13.9%	<ul style="list-style-type: none"> ・「チーム学校」として、学力向上にどのように取り組むか ・危機管理 ・校務支援システムにおける「進路」「保健」の項目の活用 ・観点別評価の進め方

エ 特別支援学校

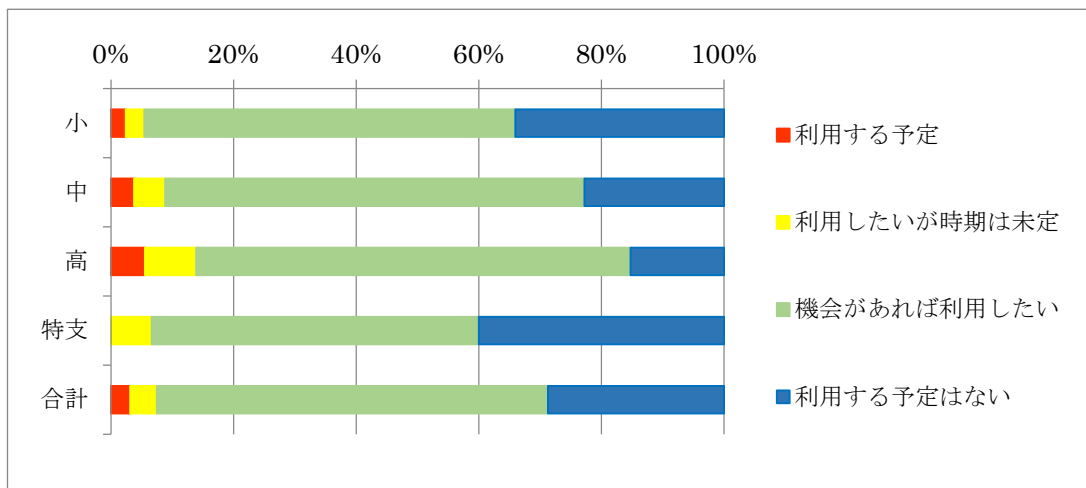
	回答数	割合	主な回答
道徳教育	1	6.7%	<ul style="list-style-type: none"> ・道徳教育の実践
特別支援教育	7	46.7%	<ul style="list-style-type: none"> ・各種障がい種の専門性の向上につながる段階的な研修 ・専門性向上に関する研修 ・肢体不自由教育に対応した研修 ・WISC-IVの検査に係る講座 ・特別支援コーディネーターを育成する研修 ・ユニバーサルデザイン ・一人一人のニーズに応じた個別の指導計画の立て方
自立活動	7	46.7%	<ul style="list-style-type: none"> ・福祉や医療との連携のあり方に関する研修 ・病弱教育における自立活動 ・重度・重複障がい児が生き生きと活動できる ICT 機器の活用 ・NMBP
情報教育	3	20.0%	<ul style="list-style-type: none"> ・スマートフォン等の普及に対応した情報モラル指導 ・タブレット PC を活用した授業
防災教育	2	13.3%	<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒自身の防災意識を高める防災教育の実際
教育相談	4	26.7%	<ul style="list-style-type: none"> ・中学校から特別支援学校高等部への入学希望についての対応 ・教育相談のあり方 ・保護者に対する支援 ・カウンセリングの技法
校内研修	1	6.7%	<ul style="list-style-type: none"> ・校内研修の進め方
校内研究	3	20.0%	<ul style="list-style-type: none"> ・担当者任せにならないような校内研究の推進 ・研究担当者を対象とした研修 ・校内の意見を引き出す効果的な話し合い
カリキュラム・マネジメント	2	13.3%	<ul style="list-style-type: none"> ・アクティブ・ラーニングの視点と連動させたカリキュラム・マネジメントの実際
主権者教育	4	26.7%	<ul style="list-style-type: none"> ・副教材の効果的な活用方法や実践事例等 ・主権者教育の位置付け方
その他	2	13.3%	<ul style="list-style-type: none"> ・精神的に不安定な生徒に対する支援の仕方

3 支援業務推進に関わる調査

(1) 教育相談に関わる調査（質問 11）

【質問 11】総合教育センターでは、幼児児童生徒、保護者並びに教職員等に対して、学校生活や特別な支援に関する教育相談を行っています（電話相談、来所相談、訪問相談）。今年度、この教育相談を利用する予定がありますか。

	小	中	高	特支	合計
利用する予定	8 (2.4%)	6 (3.8%)	4 (5.6%)	0 (0.0%)	18 (3.1%)
利用したいが 時期は未定	10 (3.0%)	8 (5.1%)	6 (8.3%)	1 (6.7%)	25 (4.4%)
機会があれば 利用したい	199 (60.5%)	108 (68.4%)	51 (70.8%)	8 (53.3%)	366 (63.8%)
利用する予定はない	112 (34.0%)	36 (22.8%)	11 (40.0%)	6 (40.0%)	165 (28.7%)



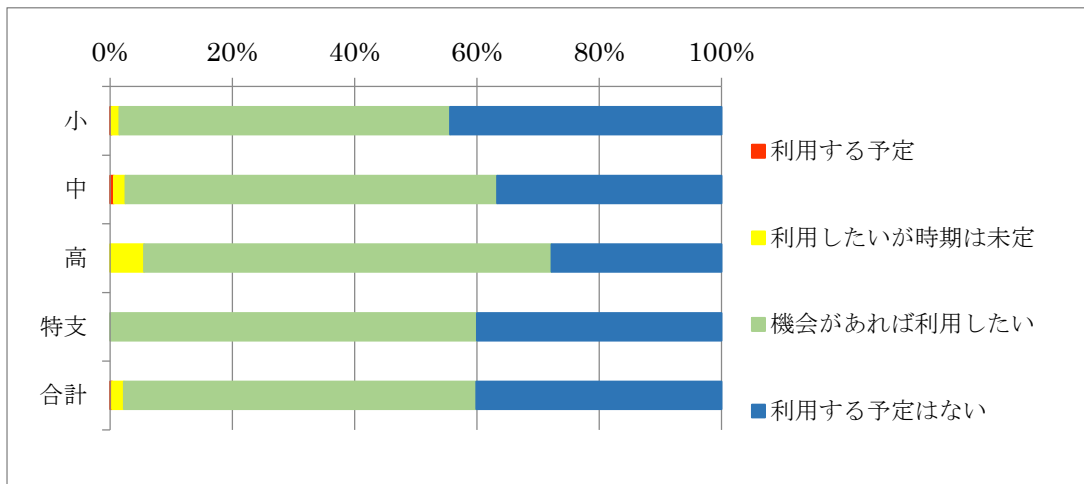
(結果)

- ・利用しているまたは利用を希望している割合は、約 7.5%である。

(2) どうぶ相談に関する調査（質問 11）

【質問 1 2】総合教育センターでは、【質問 11】の教育相談のうち、来所相談を土曜日にも行っています。今年度、このどうぶ相談を利用する予定がありますか。

	小	中	高	特支	合計
利用する予定	1 (0.3%)	1 (0.6%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	2 (0.3%)
利用したいが 時期は未定	4 (1.2%)	3 (1.9%)	4 (5.6%)	0 (0.0%)	11 (1.9%)
機会があれば 利用したい	178 (54.1%)	96 (60.8%)	48 (66.7%)	9 (60.0%)	331 (57.7%)
利用する予定はない	146 (44.4%)	58 (36.7%)	20 (27.8%)	6 (40.0%)	230 (40.1%)



(結果)

- ・利用したいまたは利用を希望している割合は、約 2.2%である。

4 研究業務推進に関わる調査

(1) センターの研究の活用状況に関する調査（質問 13）

【質問 13】 総合教育センターでは、県内の教育課題の解決や教職員の資質向上を目指し研究を進めています。平成 27 年度の研究成果物の中で、貴校の教育活動の充実に役立ったと思うものを選んでください。

	小学校		中学校		高等学校		特別支援学校		合計	
	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
学習指導要領を具体化する小・中・高等学校国語科授業づくりガイドブック「読むこと」編 改訂版	129	39.2%	32	20.3%	12	16.7%	0	0.0%	173	30.1%
学習指導要領を具体化する小・中・高等学校国語科授業づくりガイドブック「書くこと」編 改訂版	89	27.1%	27	17.1%	11	15.3%	0	0.0%	127	22.1%
学習指導要領を具体化する小・中・高等学校国語科授業づくりガイドブック「話すこと・聞くこと」編 改訂版	97	29.5%	24	15.2%	12	16.7%	0	0.0%	133	23.2%
中学校社会科及び高等学校地理歴史・公民科における「アクティブ・ラーニング型授業」づくりガイド	7	2.1%	34	21.5%	18	25.0%	0	0.0%	59	10.3%
中・高等学校英語科における「話す力」を高めるための指導の在り方に関する研究	0	0.0%	25	15.8%	11	15.3%	0	0.0%	36	6.3%
親と子が共に育つ子育ての支援事例集	25	7.6%	6	3.8%	2	2.8%	0	0.0%	33	5.7%
小学校理科の追加内容における観察・実験・授業展開ガイドブック	68	20.7%	3	1.9%	2	2.8%	1	6.7%	74	12.9%
児童生徒の実態に即した体系的な情報モラルの指導に関する研究	80	24.3%	25	15.8%	10	13.9%	1	6.7%	116	20.2%
タブレットPCを活用した学習指導に関する研究	29	8.8%	15	9.5%	9	12.5%	8	53.3%	61	10.6%
校内資源を活用した校内支援実践事例集	30	9.1%	8	5.1%	3	4.2%	3	20.0%	44	7.7%
重度・重複障がいのある児童生徒の教育内容・指導方法充実のための ICT 活用実践資料	6	1.8%	2	1.3%	2	2.8%	8	53.3%	18	3.1%
G アップシート・G ベース (Web で一般公開)	19	5.8%	138	87.3%	10	13.9%	1	6.7%	168	29.3%
特になし	93	28.3%	3	1.9%	33	45.8%	2	13.3%	131	22.8%

※ 各校種の上位 5 項目を色づけ
(特別支援学校は上位 3 項目)

(2) センターの研究の活用状況に関する調査（質問 14）

【質問 14】総合教育センターでは、県内の教育課題の解決や教職員の資質向上を目指し研究を進めています。平成 26 年度の研究成果物の中で、貴校の教育活動の充実に役立ったと思うものを選んでください。

	小学校		中学校		高等学校		特別支援学校		合計	
	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
「自己研修の進め方」事例の収集及び手引の作成	79	24.0%	33	20.9%	12	16.7%	3	20.0%	127	22.1%
数学科の身に付けさせたい力を育てる指導法について―「わかる授業」の具体化を通して―	20	6.1%	52	32.9%	9	12.5%	0	0.0%	81	14.1%
中学校理科の観察・実験資料集	5	1.5%	32	20.3%	3	4.2%	0	0.0%	40	7.0%
自主実習題材での学習指導計画とコンテンツ（技術・家庭科家庭分野）	0	0.0%	4	2.5%	1	1.4%	0	0.0%	5	0.9%
教員個々の力量を高めるための OJT ガイドブック	102	31.0%	57	36.1%	25	34.7%	3	20.0%	187	32.6%
複式学級の特質を生かした学習指導の進め方ガイド	74	22.5%	1	0.6%	0	0.0%	0	0.0%	75	13.1%
間接指導を充実させる映像資料集	17	5.2%	1	0.6%	0	0.0%	0	0.0%	18	3.1%
特別支援 進路・就労ハンドブック	12	3.6%	23	14.6%	2	2.8%	12	80.0%	49	8.5%
高等学校における道徳的実践意欲を高める情報モラル指導の在り方	0	0.0%	0	0.0%	15	20.8%	0	0.0%	15	2.6%
岩手県版 電子黒板等 ICT 機器を利用した活用実践集改訂版	34	10.3%	10	6.3%	8	11.1%	2	13.3%	54	9.4%
特になし	96	29.2%	47	29.7%	33	45.8%	2	13.3%	178	31.0%

※ 各校種の上位 3 項目を色づけ

(3) センターの研究の活用状況に関する調査（質問 15） [自由記述]

【質問 15】平成 25 年度以前の研究で児童生徒の学力向上や授業改善等に役立っている研究成果があれば記述してください。

[自由記述]

※回答数が複数であったもの

研修内容	回答数
校内授業研究の進め方ガイドブック I・II・III	25
小学校教師のためのいわて社会科デジタルコンテンツ集	3
小学校における電子黒板活用のためのサポートコンテンツ集	3
携帯サイト『スタモバ (Study by Mobile.)』	3
高等学校「生物基礎」における観察、実験サポート資料	2
小学校理科における観察・実験の進め方に関する研究－観察・実験の指導マニュアルの作成と活用をとおして－	2
小学校算数科における知識・技能の活用を図ることをねらいとした問題の作成	2
特別支援学級経営の手引	2

(4) 研究成果物の情報入手方法に関する調査（質問 16）

【質問 16】【質問 13～15】で回答した研究成果物を、どのような方法で知りましたか。以下の項目から、知った方法として最も多かったものを一つ選んでください。

	小学校		中学校		高等学校		特別支援学校		合計	
	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
岩手県教育研究発表会	119	36.2%	64	40.5%	10	13.9%	5	33.3%	198	34.5%
「教育研究岩手」	44	13.4%	18	11.4%	9	12.5%	0	0.0%	71	12.4%
センターの Web ページ	121	36.8%	73	46.2%	26	36.1%	7	46.7%	227	39.5%
研修資料	59	17.9%	30	19.0%	25	34.7%	4	26.7%	118	20.6%
センターのメールマガジン	34	10.3%	20	12.7%	2	2.8%	0	0.0%	56	9.8%
研究紹介リーフレット	17	5.2%	3	1.9%	1	1.4%	1	6.7%	22	3.8%
他者からの紹介	12	3.6%	12	7.6%	2	2.8%	2	13.3%	28	4.9%
その他	13	4.0%	3	1.9%	4	5.6%	2	13.3%	22	3.8%

※ 各校種の上位 3 項目を色づけ

(5) センターの研究として取り上げてほしいものに関する調査（質問17） [自由記述]

【質問17】 貴校の課題を解決するために、総合教育センターの研究として取り上げてほしいことを、具体的にお書きください。

※回答数の多いもの上位5項目

ア 小学校

回答内容	回答数
小規模・複式指導	39
特別支援	27
アクティブ・ラーニング	21
算数	13
授業改善	12

イ 中学校

回答内容	回答数
アクティブ・ラーニング	13
授業改善	13
学力向上	10
特別支援	9
小中連携・一貫教育	6
道徳の教科化	6

ウ 高等学校

回答内容	回答数
アクティブ・ラーニング	7
特別支援	5
観点別評価	4
情報教育	3
授業改善	2

エ 特別支援学校

回答内容	回答数
観点別学習評価	
障がいの程度に応じた校内研修	
ユニバーサルデザイン	
道徳教育	
情報モラルの指導	
特別支援教育におけるタブレットの活用	

(特別支援学校は学校数の関係上回答数は省略)

5 総合教育センターの研修・支援・研究業務への意見・要望

(1) 意見・要望に関する調査（質問 15） [自由記述]

【質問 15】 総合教育センターの業務全般にかかわって、ご意見、ご要望等がありましたらご記入ください。

※回答数の多いもの上位 5 項目

回答内容	回答数
講座等の研修全般に関すること	40
研究に関すること	30
要請研修に関すること	13
教材開発等に関すること	7
支援相談に関すること	4

Ⅲ 研修・支援・研究業務の推進に関する調査（幼稚園）

1 回答者に関わる調査（質問1）

【質問1】回答者の職名（分掌）を次の中から一つ選んで回答してください。

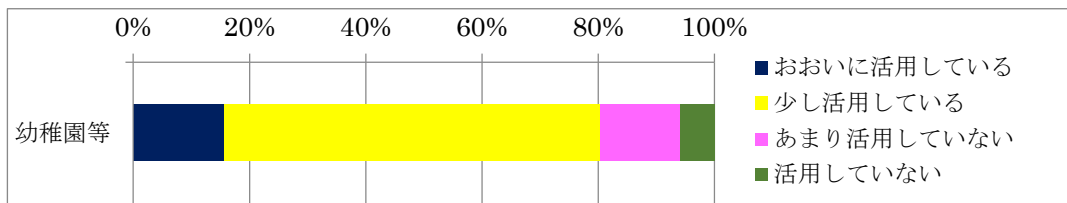
回答内容	回答数
園長	20
副園長・教頭	23
主任教諭・主任保育教諭・研究担当等	8

2 研修業務推進に関わる調査

(1) 研修活用状況に関わる調査（質問3）

【質問3】回答者からみて、貴園職員が当センターで研修した内容をどの程度活用していますか。

	回答数	割合
おおいに活用している	8	15.7%
少し活用している	33	64.7%
あまり活用していない	7	13.7%
活用していない	3	5.9%



(結果)

- ・研修内容については、「おおいに活用している」「少し活用している」を合わせると約8割になる。

(2) 活用している研修（質問4）〔自由記述〕

【質問5】「質問3」で「おおいに活用している」「ある程度活用している」と回答した場合のみお答えください。どのような研修内容を学校で活用していますか。

※回答数の多いもの、上位3項目

回答内容	回答数
基本研修（初任研、10年研）	21
教育研究発表会	7
特別支援教育に関するもの	4

(3) 活用していない理由に関わる調査（質問5）〔自由記述〕

【質問5】「質問3」で「あまり活用していない」「活用していない」と回答した場合のみお答えください。当センターで研修した内容を活用していない理由は何ですか。

※回答数の多いもの上位3項目

回答内容	回答数
参加する機会がない／参加したことがない	6
幼稚園に関する研修講座がない	4
周知不足	1

(4) センターの研修内容として取り上げてほしいこと（質問6）

【質問6】 貴園の課題を解決するために、総合教育センターの研修内容として取り上げてほしいことを、以下の具体的内容から選んで回答してください。

回答内容	回答数	割合
幼児教育の動向	13	25.5%
教育課程	8	15.7%
指導計画の作成	11	21.6%
領域「健康」	3	5.9%
領域「人間関係」	5	9.8%
領域「環境」	1	2.0%
領域「言葉」	6	11.8%
領域「表現」	3	5.9%
協同的な学び	9	17.6%
幼小接続	9	17.6%
指導と評価に生かす記録	22	43.1%
子育て支援	6	11.8%
家庭や地域との連携	3	5.9%
幼児期の特別支援教育	15	29.4%
園内研究(研修)	11	21.6%
学校評価	5	9.8%
その他	1	2.0%

※上位5項目を色づけ

(5) センターの研修として取り上げてほしい研修内容（質問7） [自由記述]

【質問7】「質問6」で選択した研修内容として具体的にどのような内容を取り上げてほしいですか。

回答内容	回答数	割合	
幼児教育の動向	13	25.5%	・今、幼児教育に求められているものと教師の援助の在り方
教育課程	8	15.7%	・教育課程作成にあたっての基本的な留意点 ・カリキュラム・マネジメント
指導計画の作成	11	21.6%	・長時間保育化における指導計画
領域「健康」	3	5.9%	・幼児が進んで体を動かそうとする意欲を育てる指導の工夫
領域「人間関係」	5	9.8%	・人間関係力を育てるための環境構成と援助
領域「環境」	1	2.0%	・保育に活かせる実技・演習
領域「言葉」	6	11.8%	・言葉の使い方による人間関係づくり
領域「表現」	3	5.9%	・豊かな表現を充実させる造形活動
協同的な学び	9	17.6%	・遊びの中で、いろいろなことに挑戦しようとする気持ちが育つ環境構成 や援助の在り方 ・少人数学級における協同的な学び
幼小接続	9	17.6%	・幼小接続、先生同士のコミュニケーションの取り方及び相互理解 ・アプローチカリキュラムとスタートカリキュラムの作成と実践例 ・小学校との連携
指導と評価に生かす記録	22	43.1%	・記録を取る視点や取った記録の活かし方
子育て支援	6	11.8%	・子育てに喜びや楽しさが感じられるような情報発信の方法
家庭や地域との連携	3	5.9%	・家庭への効果的な啓発方法
幼児期の特別支援教育	15	29.4%	・支援を必要とする園児の支援方法 ・保護者への支援の在り方
園内研究(研修)	11	21.6%	・園内研究会での話合いの進め方
学校評価	5	9.8%	・効果的な学校評価の在り方 ・家庭や地域への発信の工夫
その他	1	2.0%	・中間キャリアステージの教員を対象とした希望研修

3 支援業務推進に関わる調査

(1) 教育相談（質問8）

【質問8】総合教育センターでは、幼児児童生徒、保護者並びに教職員に対して、学校・園生活や特別な支援に関する教育相談を行っています（電話相談、来所相談、訪問相談）。今年度、この教育相談を利用する予定がありますか。

回答内容	回答数
利用する予定	0
利用したいが時期は未定	1
機会があれば利用したい	28
利用する予定はない	22

(2) どうようび相談（質問9）

【質問9】総合教育センターでは、「質問8」の教育相談のうち、来所相談を土曜日にも行っています。今年度、この「どうようび相談」を利用する予定がありますか。

回答内容	回答数
利用する予定	0
利用したいが時期は未定	0
機会があれば利用したい	22
利用する予定はない	29

4 研究業務推進に関わる調査

(1) センターの研究の活用状況に関する調査（質問 10）

【質問 10】 総合教育センターでは、県内の教育課題の解決や教職員の資質向上を目指し研究を進めています。平成 27 年度の研究成果物の中で、貴校の教育活動の充実に役立ったと思うものを選んでください。

	回答数	割合
親と子が共に育つ子育ての支援事例集	26	53.1%
特になし	25	51.0%

(2) センターの研究の活用状況に関する調査（質問 11）

【質問 11】 総合教育センターでは、県内の教育課題の解決や教職員の資質向上を目指し研究を進めています。平成 26 年度の研究成果物の中で、貴校の教育活動の充実に役立ったと思うものを選んでください。

	回答数	割合
「自己研修の進め方」事例の収集及び手引の作成	4	8.2%
教員個々の力量を高めるための OJT ガイドブック	2	4.1%
特別支援 進路・就労ハンドブック	1	2.0%
特になし	45	91.8%

(3) センターの研究の活用状況に関する調査（質問 12） [自由記述]

【質問 12】 平成 25 年度以前の研究で児童生徒の学力向上や授業改善等に役立っている研究成果物があれば記述してください。

(主な回答)

- ・ 支援が必要な幼児の育ち合いを促す保育ガイド
- ・ 幼稚園における、幼児一人ひとりが共に育ち合う指導の在り方に関する研究
—特別支援教育園内体制づくりをとおして—

(4) 研究成果物の情報入手方法に関する調査（質問 13）

【質問 13】【質問 10～12】で回答した研究成果物を、どのような方法で知りましたか。以下の項目から、知った方法として最も多かったものを一つ選んでください。

	回答数	割合
岩手県教育研究発表会	10	35.7%
「教育研究岩手」	7	25.0%
センターの Web ページ	1	3.6%
研修資料	0	0.0%
センターのメールマガジン	0	0.0%
研究紹介リーフレット	2	7.1%
他者からの紹介	2	7.1%
その他	6	21.4%

(5) センターの研究として取り上げてほしいものに関する調査（質問 14） [自由記述]

【質問 14】 貴校の課題を解決するために、総合教育センターの研究として取り上げてほしいことを、具体的にお書きください。

（主な回答）

- ・ カリキュラム・マネジメント
- ・ 幼児の遊びを充実させるための環境構成と援助の在り方
- ・ 幼児の運動的な遊び
- ・ 子どもの表現力の育成にかかわる指導（音楽リズム、劇、絵画指導等）
- ・ 道徳性の芽生えを培う保育
- ・ 人間関係力を育てるための環境構成と援助
- ・ 少人数クラスにおける保育のあり方
- ・ 園行事のねらいと取り組み方の事例集
- ・ 家庭や地域に理解を図るための発信の工夫
- ・ 幼児のことばの発達
- ・ 子育て支援事業にかかわる預かり保育における教育活動の進め方
- ・ 幼保連携型認定こども園教育・保育要領
- ・ 初任者向け、少人数保育、混合保育の進め方や指導計画の作成
- ・ 幼保一体型の幼児施設としての保育業務の円滑な進め方
- ・ 非認知能力をはぐくむ幼児期の教育（小学校との連携に向けて）

5 総合教育センターの研修・支援・研究業務への意見・要望

(1) 意見・要望に関する調査（質問 15） [自由記述]

【質問 15】総合教育センターの研修・支援・研究業務にかかわって、意見、要望がありましたら記述してください。

※回答数の多いもの上位 3 項目

回答内容	回答数
講座等の研修全般に関すること	6
要請研修に関すること	3
研究に関すること	2

IV 分析・考察

1 小・中・高・特別支援学校についての分析結果

「研修」について

<研修内容の活用について>

- 1 小・中・高等学校では、特別支援に関する研修内容が多く活用されている。特別な支援の必要な児童生徒に対する理解が進んできている一方で、その対応や支援方法に苦慮しているものと考えられる。今後、教育センターとしてもさらに特別支援教育に関する研修内容の充実に努めていきたい。
- 2 特別支援学校では、情報教育及びWISC-IVに関する研修内容が多かった。特に、情報教育については、特別支援学校へのタブレット等の情報機器の整備に伴い、ICT活用についてのニーズが高いものと考えられる。今後も、学校のニーズに応じた情報教育に関する研修内容の充実に努めていきたい。
- 3 センター研修の内容が学校で活用されていない理由としては、学校内における伝講機会の不足が多くあげられている。併せて、センター研修に対する認知不足も理由として多くあげられている。現在、希望研修に係る旅費についてはセンターで負担している。Web やリーフレット等での周知に努めながら、各学校のニーズに応じた魅力ある研修講座の運営に努めていきたい。

<取り上げてほしい教科・科目について>

- 1 研修で取り上げて欲しい教科・科目については、全校種を通じて『国語』と『算数・数学』のニーズが高く、思考力・判断力・表現力を育む観点から言語活動を充実させたより具体的な授業づくりに関する要望が多くあげられた。要望であげられた内容を十分加味し、より具体的で実践的な研修にしていくよう努めていきたい。
- 2 小・中・特別支援学校においては、『特別の教科 道徳』に対するニーズが非常に高いことが分かった。各学校が、学習指導要領の理念を踏まえた実践を進めていけるよう、今後、指導内容及び指導方法、評価についての実践的な研修を充実させていくよう努めていきたい。
- 3 中学校及び高等学校においては、『外国語』に関する研修についてのニーズが高い。英語教育の充実が求められてきている中で、授業スタイルの転換及び授業改善の方策、パフォーマンステスト等の評価のあり方について、実践的な内容を盛り込んだ研修を一層充実させていく必要がある。
- 4 小学校においては、『小学校英語』についてのニーズが非常に高い。高学年における小学校英語の教科化を目前に控え、指導内容や指導方法等の小学校英語の具体的な姿が見えていないことも背景にあると考えられる。次期学習指導要領に関する最新の情報を、「外国語活動」とも関連させながら研修内容に随時盛り込んでいくよう努めていきたい。

<取り上げてほしい領域等について>

- 1 研修で取り上げて欲しい領域については、小・中・高等学校のいずれの校種も『特別支援教育』が最も高く、通常学級に在籍する支援を要する児童生徒がいずれの校種でも多く在籍する傾向にあるためと考えられる。
- 2 小学校においては、『外国語活動』に関する研修についてのニーズが高い。中学年における外国語活動の実施を目前に控え、各学校において学校全体での体制整備が求められていることが背景にあると考えられる。基本研修及び希望研修においての『外国語活動』の研修の一層の充実に努めたい。
- 3 中学校、高等学校、特別支援学校においては、共通して『教育相談』に関するニーズが高い。個々の要望を見てみると、学校不適合生徒（保護者を含む）や特別支援に関する内容が多い。カウンセリングの手法も含め、教育相談に関する研修は今後も継続して充実させていく必要がある。
- 4 特別支援学校においては、『特別支援教育』及び『自立活動』についてのニーズが圧倒的に高い。個別の指導計画や個別の教育支援計画の作成と活用に関する研修や障がい種に応じた専門的な研修の一層の充実に努めていきたい。

「支援」について

- 1 『教育相談』の利用は、「利用する予定」「利用したいが時期は未定」併せて 7.5%のニーズがある。特に、高等学校の利用（13.9%）が最も多くなっている。相談件数については年々、増加傾向にある。今後も当センターの教育相談についての周知に努め、各学校のニーズに応じた相談業務の充実に努めていきたい。
- 2 『どようび相談』は、利用希望の割合はわずか（2.2%）であるため、センター側からの適切な情報提供が継続的に必要であると思われる。

「研究」について

<平成 27 年度の研究成果物の活用について>

- 1 小・中・高等学校共通して『学習指導要領を具体化する小・中・高等学校国語科授業づくりガイドブック』の活用率が高い。本ガイドブックは、校種をつなぐ指導事項の系統性を示した内容であり、単元構成や具体的な実践例を取り上げていることから、各校種において活用が進んでいるものと思われる。
- 2 中学校・高等学校共通して、『中学校社会科及び高等学校地理歴史・公民科における「アクティブ・ラーニング型授業」づくりガイド』と『中・高等学校英語科における「話す力」を高めるための指導の在り方に関する研究』の活用率が高い。中高における系統性を踏まえた社会科及び地歴・公民、英語科における授業改善に実践的に活用されていることがうかがえる。
- 3 小学校においては、『小学校理科の追加内容における観察・実験・授業展開ガイドブック』と『児童生徒の実態に即した体系的な情報モラルの指導に関する研究』の活用率が高い。小学校においては、理科指導の展開方法や観察・実験の基本的な進め方について、本ガイドブックが有効に活用されているものと思われる。また、情報モラル指導については、校種を問わずニーズが高い分野であり、小学校の情報モラル指導計画の発展と充実に寄与している様子が見えてくる。
- 4 中学校においては、『Gアップシート・Gベース』の活用率が 87.3%と非常に高い。前回調査に引き続き、中学校において積極的に活用されていることがうかがえる。H27 から、センターWeb による一般公開を開始したことにより、「Gアップシート・Gベース」はより活用しやすいものとなっている。今後も、一層の活用について更新と発信に努めていきたい。
- 5 特別支援学校においては、『タブレットPC を活用した学習指導に関する研究』と『重度・重複障がいのある児童生徒の教育内容・指導方法充実のための ICT 活用実践資料』の活用率が 50%を超えている。研修においても情報教育に関するニーズが高く、特別支援学校へのタブレット等の情報機器の整備と関連して、この分野における研究の活用率に反映されている。

<平成 26 年度の研究成果物の活用について>

- 1 全校種において『「自己研修の進め方」事例の収集及び手引の作成』と『教員個々の力量を高めるための OJT ガイドブック』の活用率が高い。自己研修については、初任研及び 2 年目、3 年目研にも位置付けており、校内での活用が進んできているものと思われる。OJT については、本県においても重点的に進められているものであり、各学校の校内研修体制の改善に向けて有効に活用されていると考えられる。
- 2 特別支援学校においては、『特別支援 進路・就労ハンドブック』の活用率が 80%と非常に高い。特別支援学校において当該生徒の進路・就労は切実な課題であり、学校全体の体制構築が求められている。本ハンドブックはそうした学校の高いニーズに応えた研究内容であったことがうかがえる。

<平成 25 年度以前の研究成果物の活用について>

- 1 平成 25 年度以前のものでは、「校内授業研究の進め方ガイドブックⅠ・Ⅱ・Ⅲ」の回答数が多い。県内の校内研究では仮説・検証型ではない研究推進が広がってきている状況も背景にあると考えられる。前回調査においても高い活用率を示しており、各校の校内授業研究体制の改善に向けて大きく寄与しているものと考えられる。

<研究成果物の入手方法について>

- 1 研究成果物の情報入手方法については、全ての校種においてセンターWeb ページの活用が最も割合として大きくなっている。必要に応じてセンターWeb ページから関連する内容の研究成果物入手、活用しているものと思われる。ただし、高等学校においては、センターWeb よりも研修講座の資料から情報を入手している割合が高い。
- 2 岩手県教育研究発表会を通じての研究成果物の入手では、校種ごとに差異が見られるが、研究発表会への参加者数を反映していると思われる。

<センターの研究として取り上げてほしいもの>

- 1 小学校においては、「小規模・複式指導」に関するニーズが高い。県内の児童数の減少により、小規模校及び複式の小学校が多くなってきており、複式指導に不安や課題を抱える小学校が多いことがうかがえる。当センターでは平成 26 年度に『複式学級の特質を生かした学習指導の進め方ガイド』を発行している。本ガイドについては現在 22.6%の小学校が活用している状況である。活用の一層の情報発信及び普及に努めていく必要がある。
- 2 中学校及び高等学校においては、『アクティブ・ラーニング』に関する研究への要望が多い。次期学習指導要領を見据えての授業改善の方策として圧倒的なニーズがある分野であると考えられる。当センターでは、H28・29 の二年計画で、『資質・能力の「三つの柱」を総合的に育む授業の進め方に関する研究～「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指す「アクティブ・ラーニング」の視点からの授業改善を通して～』を進めている。今後、岩手県教育研究発表会における発表も含め、本研究の成果を積極的に発信し、県内各地において普及に努めていきたい。
- 3 特別支援学校については、学校種に応じてニーズは多様であるが、観点別評価や情報教育（ICT活用）に関するニーズが複数あげられている。情報教育については、今年度に「特別支援教育におけるタブレットPCを活用した効果的な教育実践に関する研究」を進めている。「アクティブ・ラーニング」同様、岩手県教育研究発表会における発表も含め、本研究の成果を積極的に発信し、県内各地において普及に努めていきたい。

「意見・要望」について

各校からの意見・要望に関して概ね以下のとおりである。

<講座等の研修全般に関すること>

- ・意義ある研修をしていると思うので、それらの研修講座について周知をお願いしたい。
- ・魅力ある研修講座にはぜひとも参加したいと思っている。タイムリーな研修講座の開設をよろしくをお願いしたい。
- ・研修に出たくても旅費がなく断念することもある。学校の旅費負担がない研修講座は大変ありがたい。

<研究に関すること>

- ・学校現場にいると教育研究書等をじっくり読むことができないため、全国の流れが分からずにいることがある。教育センターからの最新の情報提供をお願いしたい。
- ・県内の教育課題や国の教育情勢を踏まえて、最新の研究を行っていただいていることに感謝。

<要請研修に関すること>

- ・「要請研修」は研究授業に関わった指導助言をいただくことで、校内研修の深まりにつながり、たいへんありがたい。
- ・要望のある学校の校内研に対して、積極的に提案授業をしてほしい。
- ・特別支援教育については、希望者数が多いうえ、多様なニーズがある。可能な限り講座を増やしていただきたい。
- ・教員だけではなく、子供や保護者向けにも授業を見せて行ってほしい。(情報モラル)

<教材開発に関すること>

- ・現在の社会状況に応じた情報モラルに関する様々な教材を開発・更新して行ってほしい。(センターWeb上でのアップロード等)

<支援相談に関すること>

- ・教育相談(どようび相談)等をぜひ活用したいと考えているが、日常の業務や部活動等で制約されてしまっている。

2 幼稚園等についての分析結果

「研修」について

<研修内容の活用について>

- 1 初任者研修と教職経験 10 年研修の基本研修に関する活用が圧倒的に高い。その他に、教育研究発表会、特別支援教育に関する研修講座における活用が見られる。
- 2 今回の集計にはカウントしていないが、学校教育室主催による「園長等運営管理協議会」「保育技術協議会」「幼稚園教育研究協議会」「子育て支援協議会」等の研修会への回答が多かった。
- 3 活用していない理由として、当センターにおける幼稚園等に関する研修講座が少ないことがあげられている。

<取り上げてほしい研修内容について>

「研修」に関して、以下の 4 点について多く意見が寄せられた。

- 【指導と評価に生かす記録】に関するもの (43.1%)
- 【幼児期の特別支援教育】に関するもの (29.4%)
- 【指導計画の作成】に関するもの (21.6%)
- 【園内研究 (研修)】に関するもの (21.6%)

- 1 「指導と評価に生かす記録」「指導計画の作成」への要望が多いが、自由記述の内容から、園の研究テーマとの関連、適切な幼児理解、子ども・子育て支援新制度の施行などの観点と関連したものが多。
- 2 前年度調査と比較し、割合が大幅に増えたのが「特別支援教育」に関する研修内容である。各市町村において就学指導・就学支援が一層重視されている中、幼稚園等の特別支援教育に対する理解が求められてきていることも背景として考えられる。今後、各種研修の中で「特別支援教育」に関する研修内容の充実にも努めていきたい。
- 3 「園内研究 (研修)」については、若手の育成や教師の指導力の向上など課題が明確で、研修に対する意識は非常に高いが、園内研修の時間の確保や勤務体制からくる園外研修への参加の難しさがあり、悩んでいる園が多いようである。

「支援」について

教育相談、どようび相談どちらにおいても、他校種に比べて「機会があれば利用したい」という回答が多く、多くの園で研修の必要性を感じていることがうかがえる。

「研究」について

<研究成果物の活用について>

- 1 平成 27 年度の研究成果物では、『親と子が共に育つ子育ての支援事例集』の活用率が 53.1%と非常に高い。子ども・子育て支援新制度の施行に伴い、保護者との連携について具体的な実践を掲載している本事例集は、各園のニーズに合ったものとなり高い活用率につながっているものと考えられる。
- 2 平成 26 年度の研究成果物では、割合としては高くないが『「自己研修の進め方」事例の収集及び手引の作成』と『教員個々の力量を高めるための OJT ガイドブック』の活用が見られる。どちらも若手の育成や教師の指導力の向上に向けて園内研修において活用されているものと考えられる。
- 3 平成 25 年度以前のものでは、『支援が必要な幼児の育ち合いを促す保育ガイド（平成 20 年度）』が活用されている。

<研究成果物の入手方法について>

- 1 研究成果物の情報入手方法については、「岩手県教育研究発表会」と「教育研究岩手」が 60.7%と主な入手方法になっている。
- 2 センターWeb ページからの入手については、2%と他校種に比べて圧倒的に低い。幼稚園等の教員への PC 普及率の低さが背景にあると考えられる。

<センターの研究として取り上げてほしいもの>

各園によって取り上げてほしいものは多様であるが、概ね以下のとおりである。

- ・ 特別支援教育に関すること
- ・ 子育て支援事業にかかわる認定こども園教育に関すること
- ・ 幼稚園教育要領及び保育要領の 5 領域に関すること
- ・ 家庭との連携に関すること
- ・ 小学校との接続に関すること

「意見・要望」について

各園からの意見・要望に関してまとめると概ね以下のとおりである。

- ・ PC や情報機器の習得に関する研修
- ・ 保育の具体的な実践例に関する情報
- ・ 公開保育研究会、研究発表会等での講師や助言者
- ・ 若い保育士の人材育成
- ・ 認定こども園の研修
- ・ 各域での研修の場

平成 28 年度

総合教育センターの研修・支援・研究業務の推進に関する調査結果
～現場に役立つ教育センターを目指して～



岩手県立総合教育センター 2016.12